

## 創建140年目、再建から90年目を迎えた国立博物館本館



現在は新型コロナの影響で予約入場が基本。いつでも立ち寄れるようになる日が待ち遠しい

今回取り上げるのは、2001（平成13）年に国の重要文化財に指定された、東京・上野の《国立博物館本館》だ。

国立博物館が最初に建設されたのは1882（明治15）年のこと。この国立博物館旧館の設計は、明治政府のお雇い外国人でもあった、ジョサイア・コンドルだった。

近代国家の威信を見せつけるような豪華な設計だったようだが、1923（大正12）年9月の関東大震災に被災。大きく損壊したままになっていた。

それを受けて、昭和天皇の即位を記念するため、改めて新館の建設が企図されたわけだが、竣工したのは1938（昭和13）年。かなり入念に設計・建設がなされたことが分かる。

設計は日本を代表する建築家・渡辺仁だ。渡辺仁は国が公募したコンペで入選した。その際のデザインコンセプトは、公募の際に国から与えられた「日本趣味を基調とした東洋式」というものだった。関東大震災級の地震にも揺らがないような堅牢なコンクリート建築であり、なおかつ瓦屋根をふんだんに使うなど「日本趣味・東洋式」のコンセプトを見事に体现したデザインになっている。

館内に入るとまず目に入る吹き抜け構造と、大理石で造られた堂々たる大階段、天井部分のステンドグラスなどは現代においてもインパクト絶大だ。数々の映画やドラマなどのロケ地にも使われてきたというが、それも納得できる。こんな建物は他にあまりないし、セットを造ろうと思ったらとんでもない金額になりそうだ。

主に天平時代以降の日本の美術・工芸品や、歴史資料が豊富に展示されており、ここだけで半日過ごせそうだ。（未知草）